

『中国社会』 デジタル化最新事情 ④

～中国で加速するデジタル人民元の実用化～

◇ はじめに

- 近年、世界でビットコインを筆頭に暗号資産の取引が拡大するなか、中国では人民元をデジタル化した「デジタル人民元」の実用化が進んでいます。2022年2月の北京オリンピックの会場でも実証実験が行われるなど、最近注目を集めているデジタル人民元ですが、本稿では、デジタル人民元の概要とその動向について紹介します。

◇ デジタル人民元とは

- デジタル人民元は、中国の中央銀行である中国人民銀行が発行・管理するデジタル通貨で、ビットコインのような暗号資産と異なり、実際の紙幣や硬貨と同様に通貨の価値は安定していることが特徴です。
- 中国では、2014年からデジタル人民元の研究・開発が進められています。中国政府が国を挙げて推進する背景には、通貨のデジタル化によるマネーロンダリング等違法取引の取り締まり強化や世界における人民元の流通量の増加（人民元の国際化）などがあります。

◇ 中国全土での実用化も近い？ 加速するデジタル人民元の実証試験

- デジタル人民元は、既に上海や深圳、蘇州などの大都市の商業施設やスーパーのほか、北京オリンピックといったイベントの会場でも実証実験が行われています。今年1月に中国人民銀行が発表した統計では、2021年12月時点で約2億6,100万人がデジタル人民元の個人アカウントを開通し、累計取引額は約876億元（約1兆6,000億円）に達しています。



スマホアプリ「e-CNY（デジタル人民元の略称）」の画面

同アプリを介してデジタル人民元の決済が可能。
右写真に表示される中国の主要銀行口座との紐づけが可能となる。



上海市のコンビニに設置される「e-CNY」の標示板

左写真の標示板がある店舗でデジタル人民元が利用可能。
右写真のQRコードをスキャンし、決済が完了する。



◇ 「デジタル円」の実用化

- 一方、日本においても、日本銀行主導のもと円のデジタル化について研究が進められています。民間銀行の預金や資金仲介への影響など検討すべき点も多いことなどから、今のところ日本銀行は慎重な姿勢を維持しているようですが、日進月歩で発展するIT技術を考慮すれば、「デジタル円」が実用化される日もそう遠い話ではないのかもしれませんが。

2022年4月18日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所